



新年度予算の概略とその特徴 副会長就任にあたって

副会長 赤倉昌巳

1. はじめに

暗雲立ち込めるわが国の政治並びに経済状況を反映して、医療を取り巻く情勢も全く見通しが立たず、益々厳しい状況が続く昨今です。

去る3月3・4両日開催された第115回定時代議員会において、副会長に選出されましたので、一言、ご挨拶申し上げます。平成9年度より4年間、常任理事として総務部（部長）および情報政策部、地域保健福祉部を担当してまいりました。平成11年度には、飯塚会長のもとに新執行部が誕生しましたが、現在、独自性と行動力のある会長のもとで、一役員として会務に励んでまいりました。今後は、副会長として飯塚会長を補佐し、当会の活動方針に掲げている重点項目などの諸問題に取り組んでいく所存ですので、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

2. 会計の統廃合

当会の平成13年度予算は、基本的には、飯塚会長が就任された平成11年度の方針を、ほぼ踏襲しております。さらに、今年度からは特別会計の統廃合や基準会計の概念を採用して、より一層の健全化を図っております。つまり、昨年度までの職業病対策事業特別会計は全て一般会計に統合、また事業特別会計も公益事業部分は一般会計へ、その他は収益事業特別会計へ統合しました。さらに、会館管理特別会計も収益事業特別会計へ統合して、従前の7特別会計から5特別会計に整理しました。

3. 本年度予算の特徴

平成13年度予算での新規項目としては、1)各郡市医師会に対する医療情報ネットワーク構築の支援、2)医療安全対策への取り組み、3)第32

回東北・北海道医師会共同利用施設連絡協議会の開催などがあげられます。また、前年度からの継続項目としては、4)医療情報ネットワークの整備、5)診療情報の開示、6)介護保険制度の対応、7)少子化対策、8)その他、各種積立金の確保などを考慮に入れて予算編成を行いました。その中で、「各郡市医師会に対する医療情報ネットワーク構築の支援」については、メーリングリストを活用して情報の迅速化を図るとともに、多目的な利用方法をも考慮に入れたものであります。できるだけ多くの会員参加による医師会活動の活性化を期待してのネットワークシステムであり、機能の拡充を目論んで予算を組みました。

最近、医療事故や医事紛争が急増しており、医師会の自主的な防止対策が必要となっております。患者と医師とが信頼関係を保てるように環境改善が急務であります。そのためには医療現場の意識改革が必要であり、リスク・マネジメントの概念を導入した生涯教育や啓発活動を活性化しなければなりません。そして、医療事故や紛争に関する情報収集ができる体制づくりと、早急な組織化対策が必要です。そのために本年度は、本格的な医療安全対策に取り組むための予算を計上しました。

4. おわりに

以上、平成13年度予算の概略のみの説明に止まりましたが、会員にできるだけ負担をかけることなく、医師会活動がより一層の活性化を図るような視点に立って、予算づくりを行っております。従来にも増して、会員諸賢のご協力の程、お願い申し上げます。